



ウイズレター

ホームページ <http://6seiwith.sakura.ne.jp/>

WITH LETTER



編集・発行：ウイズを支える会

Vol. 40

2017. 3. 3

ウイズ半田 ● 〒431-3124 浜松市東区半田町104-3 / TEL 053-435-5225 / FAX 053-435-5955 / E-mail: with@s8.dion.ne.jp

ウイズ蛸塚 ● 〒432-8018 浜松市中区蛸塚1-9-12 / TEL 053-489-5560 / FAX 053-489-5561 / E-mail: with-shijimi2008@ab.auone-net.jp

ウイズ創設20周年記念号

ウイズの原点



そして今

ウイズ半田



ウイズ開所時のメンバー



ウイズ蛸塚

これから

ウイズの20年、それ以前の20年

NPO法人六星代表理事 斯波千秋

平成8年全国で初めての「視覚障害者中心の小規模授産所」としてウイズがスタートして20年が過ぎました。お金も力も経験も何もないところから「視覚障害者が生産活動に参加する」「盲重複障害者の居場所」「中途視覚障害者が絶望から立ち上がる」「地域福祉の核となる」を目標として、全国の支援者の応援を背に受け、ただ愚直に歩いた20年でした。そのまた20年前の1970年代、ようやく「障害のある人達の人權」が市民権を得て、同時に権利侵害に対して闘った先輩達がいきました。「障害のある人達が当たり前に生かされない社会自体が障害なのだ」という考えが基本です。ウイズの20年は「居場所」「仕事の場」「リハビリの場」という現場を作り、この現場を拠点として、基本的人權が否定される、もしくは認められない、おかしな社会環境を変革していく活動でした。

この40年で障害者は「かわいそう」な存在から、基本的人權を行使する「権利の主体として社会で生きる」存在へと大きく変わりました。しかし現実はまだに「人權」の闘いとして水俣病・ハンセン病・沖縄・原発等が続き、身近には派遣労働やブラックバイト、子供の貧困やいじめだけでなく、津久井やまゆり園事件の様な「障害者否定思想」が根強く存在するのです。私達はこれからも、すべての「人權」の問題をリンクさせながら「障害者の人權」を切り口に建設的な闘いを続けて行きます。

障害のある人達の多くは人權侵害に気付かず、我慢してしまい、あきらめてしまうのです。人權侵害や差別を受けても感じる事の出来ない人達に「辛いだろう!」「イヤだ!と言おう!」と共感し、発言できない人達の思いを怒りを持って代弁することが現場の私達の活動です。

ウイズ・WITHは一緒に生きる、の意味です。

ウイズ20周年に寄せて

いっしょに歩もう！

ウイズを支える会 会長 柴田文雄

いつも「ウイズを支える会」にご支援ご協力をいただきましてありがとうございます。

今年はウイズ創立20年ということで、創立当時の思い出を書いてみます。

小規模授産所としてウイズがスタートした頃、クリスマス会や、白杖作り合宿の夕食会に参加いたしました。その頃は経済的な理由で皆が料理やお菓子を持ち寄ってのものでした。ある年、私と家内でおでんを作りました。50人分作るため自宅から大きなお釜を持ち込み煮込みました。そのお釜は、今もウイズのお餅つきのお米を蒸すのに使われていると思います。50人分の味付け加減がわからず塩をパラパラ、醤油をドボドボ適当に入れました。そして夜皆様が集まってパーティが始まり、おでんが配られました。味が心配でしたが、皆様からお代わりをしていただく声を聞いて安心したものでした。最近の呉竹荘の豪華なクリスマス会も素晴らしいのですが、あの頃の手作りパーティの暖かさも忘れられません。部屋が狭いので席と席がくっつき合っていましたから、集まっていた方達と身近にお話しできて、部屋中が楽しそうに盛り上がっていました。ウイズという言葉どおり皆様が一緒に協力して前向きに楽しく過ごすこの雰囲気が、今も続いているのが何より嬉しく思います。

今後、障害者に関わる制度が変わり、ウイズも変わる部分もあるかと思いますが、この暖かい雰囲気を持ち続けて、利用者の皆様、職員の方々、支援していただいている皆様がこれからも一緒に歩んでいけますように、微力ではございますが協力させていただこうと思います。

ウイズ開所前後の思い出

ウイズを支える会 前会長 島津祐策

盲学校の教師時代に卒業生を送り出す時、理療や音楽に携われない生徒の前途について話し合いが行われていました。退職後、斯波さんに出会ったことが縁で、視覚障害者の作業所を作りたいという話に賛同して、斯波さんを囲んだ有志の集まりができました。平成3年の頃でした。

設立行動が開始されたのが平成6年の春頃からで、斯波さんが買い取られた住宅に有志が集まって相談やパソコン練習、そして作業のまね事をしたものです。同年夏には最初の試みとして「白杖づくり体験合宿」を全国の視覚障害者に呼びかけました。驚くほどの参加希望があり、この合宿は今も続いています。

平成7年には、行政や地域社会との交渉に明け暮れ、平成8年3月2日に開所に向けての「支える会」が発足しました。次いで4月8日にウイズでの作業が開始、同20日に開所式が行われ、正式にウイズがスタートしました。

私も仕事の傍ら作業の手伝いに出掛け、白杖づくりを手伝ったり、作業の種類を増やすための話し合いや相談にのったりしました。その後、一番大きな仕事として平成10年にはNTTからの依頼で、点字電話帳の点字印刷に取り組んだのも忘れられないことです。ウイズの通所者も少なかったので、私も手伝いに参加しました。素晴らしい思い出です。

それから20年、現在私はウイズ蔄塚の利用者としてお世話になっていますが、日々生活の中で非常に生きがいのある時間を過ごしています。

※ 島津祐策さんは、浜松盲学校の元教師、そして宮城道雄氏の愛弟子の箏曲演奏家 師範として成和会社中を結成。視覚障害者の音楽活動を支え、日本盲人会連合・全国盲人音楽家協会会長として活動されました。ウイズ設立前より「支える会」の会長として、ウイズの発展の基礎を築かれました。



島津さんと奥様の(故)佐代子さんご夫婦の深〜い愛情でウイズを育てていただきました。

開所当時の思い出

浜松市視覚障害者福祉協会 会長 市川健悟

平成8年の春、私は積志協働センター（当時の公民館）の溢れるほどの人波と歓喜の渦の中にいた。それは、小さな小さな組織が5年間の準備期間を経てようやくここにその産声を上げた瞬間であった。

全国初の視覚障害を中心とした障害者授産所「ウイズ」としてそれだけ注目度も高かったのか、各地から大勢の人たちが駆けつけ、ホールの定員をはるかに超えた人々で会場は熱気で充満していた。その雰囲気伝えるために、NHK第2放送の視覚障害者向けの番組を担当していたディレクターがオープンリールの大きなデッキを担ぎながら取材に奔走していたことを今も鮮明に思い出することができる。

開所5年ほど前に、斯波さんの障害者支援のための作業所設立にかける思いと理念を知り、私も立ち上げのためのメンバーの一人に加えていただいた。しかし、関係機関や団体の責任者を訪れてその必要性をお話ししても数年間はほとんど進展がなく、このまま失速してしまうのではないかと思われる時期もあった。そんな頃、以前から授産所を運営されている方との出会いがあり、設立に関する様々なノウハウを授かったことにより斯波さんの夢はその実現に向かい急展開の加速を深めていくことになる。

その頃、設立に関わっていた私たちは、それぞれの仲間呼びかけて毎週土曜の夜に旧ウイズに集まりアクションを起こすことによって少しでも貢献できるのではないかと言う思いを持った。そこで、自らが使う白杖作りの体験をしたり、音声パソコンの学習を始めたり、開所後の通所メンバーとなった何人かの中途視覚障害者との出会いや共感をいただいた多くのボランティアの皆さんをも巻き込んで開所への気運を高めて行った。

ご存知のように、二十歳の多感な青年期を過ごしているウイズ半田は、その後得たウイズ蛸塚と言う弟分と共に六星という法人の基にがっちりとスクラムを組んで力強い歩みを続けている。思い起こせば40代前半に関わったこの事業、本当に多くの皆さんに支えられてさらなる充実度を増している様子を目の当たりにするとまさに隔世の感を禁じ得ない。私もさらに歳を重ねこのウイズに包まれ見守られて行く一人になるのかもしれない。

※ 市川さんは、ウイズ準備会からの同志です。

ウイズに学ぶこと

理事・半田ボランティア 久米喬枝

月に数回、午後のわずかな時間ですが私がとても楽しみにしている日があります。

目が不自由という大きなハンディを負いながら、いつも明るく元気いっぱいウイズ半田の皆さん。ご一緒させていただくだけでほっと心が暖くなる、その源はどこにあるのでしょうか。

指の感覚だけで一生懸命学び取った細かい技術、その技の一つひとつを引き継ぎ、自分の役割をしっかりと果たして出来上がっていく製品や品物の数々、世の中の多くの皆さんに愛され役に立っていることの実感が、大きな喜びと自信につながっているのではないのでしょうか。その陰には、一人ひとりの持ち味と感性を見出し、心細やかに支えている職員の皆さんの大きな力があるのは言うまでもありません。お互いの信頼感と暖かな雰囲気の中で飛び交う笑顔やジョーク等々…そこには人として生きていくうえでとても大切な、人との関りや思いやる心など、今の世の中だからこそ大切にしていきたい多くの事がウイズの開所以来脈々と受け継がれてきているのだと思います。

毎年行われる地域交流会やクリスマス会、様々な障害のある方達が集まるスポーツ大会、そこに集うたくさんの方の輪は、一人ひとりが支え合ってこそ出来る大きな大きな力の輪であることにいつも感動をいただいています。

“支える事は支えられる事” 支え合うことの大切さや喜びをこれからもより多くの人達と分かち合っていきたいと思っています。

※ 久米さんは、創立当初よりウイズにご支援下さり、現在も半田へ日中の作業のお手伝いに来て下さっています！

ウイズ 20周年に寄せて

ウイズ20周年に寄せて



夏目さんご夫妻（クリスマス会にて）

ウイズと出会って卒業して…

ウイズ半田 元利用者 夏目政登

私は約25年前、網膜剥離の為、視力を失ってしまいました。言葉にならない程の不安の毎日でしたが、白杖の購入を通して斯波さんとの嬉しい出会いがありました。その時、ちょうど日本で初めて視覚障害のある人の為の小規模授産所の設立の準備をされている時でした。準備の会合にも何回も参加させてもらいました。

ウイズ開所後、斯波さんから歩行訓練を受け、自宅から鷺津駅まで妻に送迎してもらい、鷺津駅からは一人で浜松

駅を經由して、遠鉄電車に乗ってさぎの宮駅まで十五年間無事故で通所することができました。その間には、同じ鷺津から浜松の郵便局へ通勤するKさんに助けていただいたり、ウイズにて多くの方と交流もでき、充実した日々を送ることができました。

その後、ウイズを卒業してからは、豊橋市に開所した「てのひら」に通所し始め、現在も通所しています。そちらでも多くの友ができ、仕事に励んでいます。また昨年からは週二日、地元湖西市にある授産所へ通所し、他の障害の方々とも仕事のできた事はとても良い勉強になりました。たとえ見えなくても、仕事に励むことを常に心掛けています。

斯波さんとの出会い、ウイズにての色々な体験が私の人生を変えてくれました。高齢（七十九歳）になりましたが、ウイズの考え方を広めながら、健康に留意して日々を明るく過ごしていきます。

※ 夏目政登さんは、ウイズ設立準備会の頃から奥様の享子さんと一緒に参加されたウイズ一期生です。また豊橋のNPO法人てのひらの作業所ができると移籍し、ウイズの自慢をしまくっていました(笑)。

ウイズの哲学をスリランカで！

ダスキン アジア太平洋障害者リーダー育成事業3期生

アッタナヤケ・ムディヤンセラゲ・ヘーマンタ・クマール

私はスリランカのヘーマンタ・クマールです。クマではありません。

まず、ウイズの20年おめでとうございます。私の温かい心を届けます。とても嬉しいです。

私は2001年、ダスキン研修生として初めてウイズに行きました。そこで斯波さんや金谷さん達、多くの視覚障害者に会いました。そして白杖づくりや点字印刷を楽しんでやる事を学びました。斯波さん達からいろいろな大事な考え方を教えてもらいました。おしゃべりすることもたくさん練習できました。本当に日本語を楽しみました。とても心が安心し、みんなの愛がいっぱいで心がホットになりました。おもしろいのは、私は自分が外国人であることを忘れてしまいました。斯波さんといろいろな福祉学校などへ行き、たくさんの人と出会い、そして体験しました。この勉強のあとスリランカへ帰った私は自分の経験を盲学校の校長先生に話しました。そしてウイズのおかげで、校長先生と一緒にもう一度日本へ行くことができました。

ウイズで斯波さんと私は「窓」というテーブル雑誌に出ました。とても面白く、私の声でスリランカの音楽と日本の音楽が仲良くなり、楽しみが広がりました。この技術と経験でスリランカでも仏教団体の協力でCD雑誌を作ることになりました。スリランカではしゃべる新聞と言われ、人気です。

2003年の虹の架け橋プロジェクトで日本から点字タイプライター、拡大読書器、音声時計など大事なものをたくさんもらいました。とても役立ちました。お陰で私の盲学校の生徒の10人が大学へ行けるようになりました。プレゼントされた楽器を使って音楽の勉強もできました。本当にありがとうございました。

日本はスリランカのよい友達です。日本人はとても親切なやさしい気持ちを持っている人達ですね。私が日本にいる時に、斯波さんは私達に「元気づける人」と名付けてくれました。私はその考えをもとに小さなお金で「小さな手」という基金を作り、貧乏な生徒を助けたり、薬の必要な人に薬を買ったり、障害のある人を助けたり、小さなことをたくさん助ける活動も続けています。そこで出会った団体でいま働いています。中途視覚障害者訓練センターです。ここで点字やCDの図書を作りました。そして普通の本をデージーにするプロジェクトもやっています。日本で勉強した技術です。

もっともっと斯波さん達のウイズの哲学が有名になるといいですね。世界中にウイズができるといいですね。みんな愛する優しい人達が多くなるといいですね。障害者にできることがわかる心を持つ人達が多い社会を作ることがウイズの夢だと思います。

校長先生もいろいろと経験でき、そのおかげで、ウイズとスリランカの盲学校の間に虹の架け橋を作りました。スリランカで、職業を身につける場所ができました。日本からソーイングマシンや印刷機、そしてお金をたくさんいただきました。斯波さんや金谷さん達がスリランカウイズのオープニングに来てくれて勇気づけてくれました。視覚障害者より聴覚障害者を中心にスリランカウイズは仕事をしています。カバンづくりや縫い物、染め物、イスづくりなどをやっています。この盲ろう学校の生徒達は、日本から明るい光をいっぱいもらいました。

他に、斯波さんから教えてもらったいい考え方を文章にして視覚障害者の雑誌や普通の新聞の記事にしました。みんなそれを読んで感動しました。日本の福祉のことに驚いていました。記事を読んで、家にいるだけの視覚障害者にどうやって点字を教えるかなどの相談も受けました。私はウイズで勉強した哲学をスリランカの普通の学校やラジオ・テレビなどで話しました。そのお陰で点字教育のボランティアのグループができ、今は墨字の仏教の絵本を点字にするプロジェクトを進めています。

私も人の心を理解し合える優しい社会を作るためにできることをします。そのために楽しみながら頑張ります。日本のウイズがもっと長生きしてたくさんの障害のある人達に光を与える施設になるように祈っています。

どうもありがとうございました。ウイズ大好き。ウイズ哲学愛しています。



音楽の大好きなクマラさんは日本の笛も得意です！



スリランカの文化を伝えるクマラさんと斯波さん

ウイズ 20周年に寄せて

ウイズ20周年に寄せて



松井敬子さん・亮さん親子
「20年がんばりましたね！」

親子で歩んだ20年

ウイズ半田 家族 松井敬子

ウイズ開所20周年おめでとうございます。

平成8年の開所式には、通所者6名と4名の職員の為に、全国から200名を超える方々が駆けつけて下さり、力強い応援スピーチ、お琴の演奏でウイズがスタートしました。息子の亮もこの輪の中に入れていただき、全国初めての視覚障害者の施設、これからどんな作業所になるのかと胸がワクワクときめいたのを覚えています。

当時斯波さんは数年前から準備し、ウイズに土地建物を無償で提供して下さり、また睡眠時間を削って、通所者の送迎など本当に頭の下がる思いでした。情熱あふれる斯波さんに、少しでもお手伝いしたくて連日ウイズに通ったものです。白い建物の中は、みんなの明るい声が響きそ

れぞれに思うことを自由に発言し、昨日のこと、ニュースなどおしゃべりが続き、家の中でこもっていた人達が以前より増して表情豊かに変わったのです。おしゃべりだけではなく、仕事もそれぞれに出来ることを精一杯頑張っていました。お昼休みの散歩も四季の風を肌で感じながら、馬込川の土手の小さな草花を見つけ、立ち止まり、斯波さんが説明をしてくれて、手で触ったり香りを楽しんだりして、心穏やかに過ごす時間でした。毎日みなさんから元気をもらって心地よく帰路についたことを思い出します。

支える会の会員人数も最初は少なく、イベントのたびにご近所、友人、知人、親戚と多くの方に会員になって頂き、これまで皆さんに支えられてきたことに感謝で一杯です。ありがとうございます。

亮は、支える会前会長 島津先生にキーボードのご指導を受け、ウイズのイベント、老人ホームなどでお琴とキーボードの演奏に参加し、そのお陰で家では好きな曲を楽しんで弾いています。私も当初からウイズの誕生会、旅行、イベント等に参加させていただき、みなさんのお話を伺い、いろいろなことを知り、私の人生もおおいに楽しむことができました。今朝も亮は8時になると、「笹本号がくる」と、元気よく家を出て、3時半すぎには「ただいま」「印刷は〇〇さんとやった」「お昼は〇〇食べた」と、帰宅してすぐに報告してくれます。こんな日常生活が送れるのもウイズのお陰です。斯波さんはじめ職員の皆さんの心温まるご指導の賜物です。

ウイズの20年が過ぎ、新たな5年、10年後を楽しみにしております。

※ 松井敬子さんは通所20年の松井亮さんのお母さんで、支える会の会計や事務、種々のボランティアでウイズを支えて下さっています。

ウイズ20周年に寄せて



開所式 一浜松市積志公民館にてー
(1996年4月20日)



水保・浜松展
(1999年)



斯波千秋&ラベンダース
(2001年)

ウイズ20年の歩み

- 1993年(平成5年) 授産所設立準備会の結成 半田町の盲人福祉研究会作業所を開放し、会議等の場とする。(現ウイズ半田)
- 1994年(平成6年)8月 第一回白杖づくり体験合宿開催 — 視覚障害者の物づくり実験
- 1995年(平成7年)3月 第一回JICA国際協力事業団、アジア視覚障害者技術支援プログラム研修生受け入れ(盲人福祉研究会受け入れ)
- 1996年(平成8年)4月 障害者授産所ウイズ開所 — 全国初の視覚障害者中心の小規模授産所ウイズとして、盲人福祉研究会作業所を浜松市に10年間無償貸与契約
同 8月26日～9月5日 ウイズ利用者・職員海外研修(カナダ、アメリカ)
- 1997年(平成9年)3月 開所1周年記念コンサート — 手話ロックグループ、シャンテ・プラス加納洋
- 1998年(平成10年)3月 第1回静岡県福祉のまちづくり賞受賞
- 1999年(平成11年)3月 開所3周年記念コンサート — 和波孝禧 プラス土屋美寧子 パイオリンコンサート
同 10月9日～17日 水俣・浜松展 共催(アクトイベントホール)
- 2000年(平成12年)4月 広報はままつ点字版、印刷開始
同 10月 施設長・斯波千秋、ヘレンケラーサリバン賞受賞
- 2003年(平成15年)4月 「視覚障害者生活訓練指導事業」が浜松市より認可される
同 7月12日～24日 スリランカ・クンブukkan盲ろう学校支援訪問
ワークショップ ウイズスリランカ開所 作業指導及び講演会
- 2005年(平成17年) 開所10周年記念イベント
8月14日 河合純一氏主演「夢追いかけて」映画上映
10月10日 「10年を振り返り10年を夢見る」(メインイベント)
10月23日 フェーズのジャズライブ
- 2006年(平成18年)6月 特定非営利活動法人(NPO法人)格取得
- 2007年(平成19年)9月 ミャンマーへ白杖づくり指導訪問
同 11月 第2ウイズ(現ウイズ蛸塚)建設に向けチャリティ野菜市(フォルテガーデン)
- 2008年(平成20年)4月 ウイズ蛸塚開所
同 7月27日 ウイズ蛸塚開所記念チャリティーコンサート
「疋田修三カルテットジャズライブイン浜松2008」開催
同 12月1日 ウイズ半田「就労継続支援B型事業所」に移行
- 2009年(平成21年)4月 ウイズ半田増築工事・竣工
同 10月1日 ウイズ蛸塚「就労継続支援B型事業所」に移行
- 2011年(平成23年)10月 毎日新聞社点字毎日文化賞・中村京太郎賞 受賞
同 11月 社会貢献支援財団より社会貢献者 表彰
- 2015年(平成27年)3月 スーダンへ視覚障害者リハビリ施設建設について打合せ訪問
- 2017年(平成29年)2月 マレーシアへ白杖づくり指導訪問



10周年記念イベント
河合純一氏主演映画上映会(2005年)



ウイズの新たな拠点「蛸塚」がオープン
(2008年)



マレーシアにて白杖づくりを伝授
(2017年)

近況報告 〈ウイズ半田〉

サービス管理責任者 金谷 淳子

2017年も早2ヶ月が過ぎ、ウイズは21歳の誕生日を迎えようとしています。新しい仲間も増え現在17名とアイメイト1頭、賑やかな毎日です。

私が初めてウイズにお邪魔したのは平成10年、ウイズ開所3年目の春でしたが、その時の利用者さんは8名ほど、8畳の和室と板の間で、白い杖とポップリ作りなどの作業をしていました。松井亮さんが島津先生からお琴の弦を張る指導を受けていたのが印象的でした。その年の夏、NTT西日本から「点字電話帳静岡県版の製作」という大変大きな仕事をいただきました。全350ページの点字冊子を700部も印刷するためには、原版となる金属板に点字を打ち（製版）、1枚ずつ紙を挟んでプレスする（印刷）という作業を行うのですが、当時のウイズにはそれに必要な点字印刷機も製版機もありませんでした。無謀とも思える仕事の受注でしたが、関係団体の協力を得て何とか製作準備が整いました。真夏の2ヶ月間、利用者さん、ボランティアさん、職員が総出で福祉交流センターに毎日通い、印刷機を借りての作業が続きました。こうしてみんなが一丸となって成し得た仕事の成果として得たものは、その後のウイズが点字印刷を自力でできるための設備投資の資金、そしてそれ以上にどんなに小さな施設でもみんなが力を合わせればこんな大きな仕事ができるという自信でした。

あれから20年近くが経った昨年の夏、再び同じ点字電話帳の仕事をいただきました。3年毎に製作されている電話帳ですが、ウイズにとっては久しぶりの仕事でした。製作数は以前より減ったとはいえ、責任ある大きな仕事です。仲間全員が協力しての点字印刷、製本の作業が1ヶ月間続きました。今では設備も作業環境も整いスムーズに完遂できましたが、その要因はこれまでの20年間の事業の継続によってできたネットワークにあると感じました。材料の調達や外注加工など、私たちの力ではできない部分に快く関わって下さる方々のお陰です。改めて感謝をするとともに、このネットワークという財産をこれからも大切に引き継いでいく責任を感じています。そしてまた、作業の主役である皆さんの力が存分に発揮できるよう考えて下さった先輩方の工夫と治具の素晴らしさを再認識しています。感謝です！感謝の気持ちを忘れず、これからもみんなで力を合わせていきます。



近況報告 〈ウイズ蛸塚〉

サービス管理責任者 古橋 友則

蛸塚ではこの半年で新たに4名の利用者さんが加わりました。皆さん社会経験の豊富な方たちばかりで、話題提供や場を盛り上げてくださり、新しい風を蛸塚に運んで来てくれています。

いま蛸塚に在籍している29名の中には、毎日元気に来てくださる方もあれば、通院や透析等の理由で週に一度しか来られない方もあります。また現在体調不良のため入院中で、復帰に向けて一生懸命リハビリをされている方もおり、皆さんそれぞれの精一杯の中でウイズに来てくださっています。

そんな中、ウイズに通うことをとっても楽しみにしてくれていた竹村廣子さんが今年の1月に急逝されました。昨年6月に施設入所のためウイズを卒業し、新たな生活を送っていた矢先の訃報に我々もただただ残念でなりません。廣子さんのご冥福を謹んでお祈りいたします。

さて今年に入って再び、埼玉県で視覚障害者が駅ホームから転落し亡くなられるという痛ましい事故が起こりました。昨年末には大事には至らなかったものの県内でも同様の転落事故が発生しております。このような事故が起こるたびに、安全柵設置などの環境整備、駅員の声掛けや市民への啓発が叫ばれてきましたが、同様の事故が後を絶ちません。

このような状況の中、国や各組織や団体が、事故の再発防止に向けて真剣に話し合っています。

ウイズとしても、まずは自分たちでできることをしていかなければなりません。ウイズに通ってくる人だけでなく、県内に住んでいる視覚障害のある一人ひとりが自分の安全に対する意識を高めるとともに、歩行訓練等を通して再確認することが必要だと思います。現在、ウイズには3名の歩行訓練士がいます。皆さんの歩き慣れた駅や交差点でいま一度訓練を受け、安全の再確認をしていく機運を高めていきたいと思っています。

イベント報告

半田地域交流会 雨にもマケズ 大盛況!!

2016.9.18(日)



子ども達に大人気! 流しそうめん!

今年の地域交流会はあいにくの雨となってしまいましたが、300名以上のお客さんに来ていただき大盛況となりました。イベントの目玉、流しそうめんの竹は年々長くなっており、昨年は8mでしたが今年は雨を避け、屋根の下で行ったため昨年より短い竹で流すことに。竹の両側はそうめんを待ちかまえるお客さんでいっぱいでしたが、譲り合って楽しくおいしく!今年も大人気の流しそうめんでした。

雨の中最後の抽選会までたくさんのお客さんが残って下さり、いよいよ抽選会スタート!抽選番号が読み上げられるたびに歓びの声!と、同時にため息が…(笑)

例年通り最後まで盛り上がり温かい拍手で終わることができました。ご協力下さったボランティア、ご家族の皆様ありがとうございました。(半田スタッフ 岡田)

第9回蜷塚福祉まつり ミニ牧場やイス作り体験が加わり大好評!

2016.10.23(日)

天気にも恵まれ、第9回蜷塚福祉まつりが開催されました。

今年は新たにご近所の大工さんのご指導の下、お子様向けのイス作り木工体験が行われたり、ミニ牧場としてポニーとヤギが会場を賑わせてくれました。そして広沢小学校合唱部の子どもたちの歌声も、まつりに華を添えてくれました。たくさんの方が来てくださり、最後に行われた大抽選会も大盛り上がり。これからも皆さんに楽しんでいただけるような福祉まつりを開催していけたらと思います!!

地元自治会や地域ボランティア、学生ボランティアそして企業や団体、多くの皆様にご支援、ご協力をいただきましてありがとうございました。

(蜷塚スタッフ 高橋)



大賑わいの野菜コーナー!



どんなイスができるかなあ!

● 第22回 ウイズを支える会総会のご案内 ●

日時/平成29年4月15日(土) 13:30~16:30

会場/浜松市福祉交流センター 4階 大広間

総会終了後、15:30より浜松市手をつなぐ育成会啓発部・浜松キャラバン隊の寸劇ワークショップ「発達・知的障害を知ろう!」を予定しております。楽しみにしてください!!

おねがい



Tシャツや肌着など 綿100%の白い無地の布

ウイズと布ぞり材料の提供求む!!

中古着等でもかまいません。ご協力をお願いします!

綿100%の浴衣・手ぬぐい



蛭塚日帰り旅行

～お茶づくし&大井川鉄道SL乗車ツアー～

2016.11.22(火)



お茶畑の中、みんなで「ハイチーズ！」

11月とは思えぬ陽気の「いい夫婦の日」に、蛭塚は金谷方面に旅行に行ってきました！

まずは、牧之原にあるお茶のテーマパーク・グリーンピア牧之原へ。白いお茶の花が咲く茶畑を歩き、お茶尽くしのお昼ご飯、世界一濃いと話題の抹茶ジェラードを楽しみました。満腹になった後は、バスで北上し、川根の家山駅へ。

今回は名物の抹茶鯛焼き片手にSL乗車です。参加者の中には、若い頃に乘ったことがある方も多く、あちこちで「懐かしい！」という声。新金谷までの30分ほどの乗車でしたが、木製の座席の手触りや石炭の匂い、ガタンゴトンという無骨な振動、車掌さんのハーモニカに合わせて歌った「ふる里」…とっても印象深い一時でした。帰りのバスでは、3組の「いい夫婦」を皆でお祝いしつつ、元気に帰路につきました。

今回は、若い頃に乘ったことがある方も多く、あちこちで「懐かしい！」という声。新金谷までの30分ほどの乗車でしたが、木製の座席の手触りや石炭の匂い、ガタンゴトンという無骨な振動、車掌さんのハーモニカに合わせて歌った「ふる里」…とっても印象深い一時でした。帰りのバスでは、3組の「いい夫婦」を皆でお祝いしつつ、元気に帰路につきました。

今回も沢山の皆様のご協力のもと、楽しく旅行に行ってくることが出来ました。有難うございました！

(蛭塚スタッフ 四村)

旅行の感想

ウイズ蛭塚 利用者 横原良子

懐かしいSLの旅。小学生時代に両親に東山動物園につれて行ってもらった時のことを思い出しました。

ウイズに来て、たった2ヶ月でこんな楽しい思い出の1ページを残すことができました。毎日いつ失明するのか、そのことばかり考えてしまうのですが、旅行で一瞬のつかの間そのことを忘れ明るい気持ちになれたのが嬉しかったです。

NEW FACE

ウイズ半田 利用者 ^{みなみざわ みつ お}南澤満雄

「一期一会」という言葉が有ります。実は私、7年前に市役所（福祉課）の紹介を受け「ウイズ」に訪問、施設の説明を受けていたのでした。そして最近、加齢と共に視力の低下を感じる様になり、日々不安を抱いている状況でした。そんな時思い出したのが「ウイズ」の名前でした。思い切って電話をさせていただいたところ、再訪問の快諾を得て、現在に至っているというわけです。規則正しい生活リズム、仕事、会話等々…により私は人生のハリを見つける事が出来ました。施設長はじめ職員皆様の優しい言動と、明るく元気な仲間と囲まれ、毎日楽しく仕事をさせて頂いています。

そして私はこの「一期一会」の言葉をこれからも大事にして人生を送って行きたいと思えます。今後共よろしくお願い致します。

また会いましょう！

ウイズ蛭塚 スタッフ 高橋 静

この度8年間勤めたウイズを卒業し、実家のある秋田に戻ることを決意しました。もともと「いつかは戻りたいな」と思っていたのですが、ウイズでの仕事や浜松での生活が楽しく、まだまだ先のことだと考えていました。しかし、雪深い地域に住む両親や、これから先の自分の人生を考えたとき、今のタイミングがベストだと判断しこのような運びとなりました。

ウイズでは利用者の皆さん、ボランティアの方々、職員の皆さんに、社会人として、そして人として育てていただきました。正直なところ、まだウイズで働きたいですし、今の生活を楽しみたい気持ちもあります。でも自分で決めたこと。これから先、秋田での生活を悔いのないものとしてみせます！

皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ここまで楽しく仕事できたのは皆さんのおかげです。少しは恩返しできていたでしょうか？

どこかで「秋田」と聞いたら、名前のように静かな私のことを思い出してもらえたら嬉しいです。今まで本当にありがとうございました。

スタッフコラム



わくわく・ニコニコ(^_^)がいっぱい! 2016 合同クリスマス会



12月22日(木)にウイズクリスマス会を、呉竹荘にて総勢91名の皆さんと行いました。

前半の表彰式ではお世話になった方々へ感謝状の贈呈、そしてウイズ初の利用者さんの永年勤続20年をはじめ、5年10年の表彰もあり、みんなでその頑張りに拍手を送りました。おいしい食事とお喋りとともに会は進み、プレゼント交換では、今年は参加者全員がトナカイに…!?スポンジでできた赤玉を鼻の上につけて盛り上がりました。ウイズの1年を振り返るスライドや職員の出し物(ハンドベルと朗読劇)もあり、最後に全員で赤鼻をつけた91頭のトナカイ!?で記念写真を撮り、笑い声がいっぱいのクリスマス会でした。

(蛭塚スタッフ 岩本)

感謝状贈呈・永年勤続表彰者

(敬称は略させていただきます。)

- 感謝状贈呈 夏目政登・享子ご夫妻、タケムラ写植 竹村義秀、豊島印刷 豊島睦子、川合モータース 松本 昇、株式会社カワイ 三宅秀樹
- 20年勤続表彰 松井 亮 (ウイズ半田)
- 10年勤続表彰 村松和是 (ウイズ蛭塚)、杉山和子 (ウイズ蛭塚)
- 5年勤続表彰 島津祐策 (ウイズ蛭塚)、濱 愛里 (ウイズ蛭塚)



20年

ウイズ半田 利用者 **松井 亮**

ウイズに通って20年になり、たくさんの人達に支えていただき、ありがとうございました。体調が悪くて休んだこともありましたが、今は元気にウイズに通っています。楽しいこともいっぱいありました。散歩や旅行、誕生会やいろんな所へ連れて行ってもらいました。

斯波さん!金谷さん!スタッフのみなさん!ウイズのみなさん!いつもやさしくしてくれてありがとうございます。これからもどうぞよろしく願いいたします。

10年

ウイズ蛭塚 利用者 **村松和是**

5年・10年と表彰状をもらい、額縁に入れ部屋にかざってあります。ウイズのみんなはいい人たちでこの10年楽しく生活できました。ありがとうございます。

5年

ウイズ蛭塚 利用者 **島津祐策**

80何年生きてきて、自分で読める点字併記の賞状をいただいたのは、初めてでとても嬉しかったです。長生きはするもんだ~はっはっはっ~85歳の島津でございます。

10年

ウイズ蛭塚 利用者 **杉山和子**

10年続くかどうかと思っていました。時にはイヤなこともあったけど、10年楽しくはたしました。私は主に数を数えることや、歌が得意ですが、時にはガマンして他のこともがんばっています。

5年

はばたく可能性

ウイズ蛭塚 利用者 **濱 愛里**

このたびは5年表彰をいただき誠にありがとうございました。18歳からウイズ蛭塚さんにお世話になり、5年の歳月が流れました。苦手だった針仕事もできるようになり、とてもうれしいです。点字も読めるようになって世界が広がりました。これからも自分の可能性を広げていきたいと思えます。まだまだ未熟な私ですが、よろしく願いします。

● 永年勤続表彰者 感想 ●



前半司会
宮本さん・山本さん
コンビ



【永年勤続表彰者】
左から 松井さん、杉山さん、村松さん、濱さん、島津さん



後半司会
山下さん・高橋さんコンビ



【感謝状受賞者】
夏目さんご夫妻、竹村さん、豊島さん

● 感謝状受賞者 感想 ●

★★ きらきらの思い出に ★★

豊島印刷(株) 豊島睦子

人生で初めてのクリスマスパーティー、しかも感謝状まで頂いてとても感激し、私にはきらきら光る素晴らしい思い出になりました。

感謝状は、こちらがお世話になっているのに頂くなんて、と思い恐縮しておりましたが、賞状の文面に「笑顔で対応し」という言葉があり、とても嬉しく思いました。

ウイズにお邪魔すると、いつもみんなで工夫して一緒に助け合っている姿を見ておりましたが、このパーティーでもみんながゆるやかにつなげて大きな円(縁)を作っている感じがしました。

斯波さんが、涙なしにはみられないと言われた職員さんの寸劇をみたかったのですが、都合で途中退席になり鑑賞することができなかったことだけが大きな心残りになっております。

ウイズに届けられた「ほっと♡メール」をご紹介します

私は現在「東京光の家」という視覚障害者施設に入所している田口久美といます。

ウイズには、もうずいぶん前に夏の合宿でお世話になりました。私は両足が不自由なため、白杖を使うことはできませんが、物を作ることが好きで白杖づくり体験合宿に参加したいと思いました。また、初めて親以外の方との生活体験を試みたかったからです。

当時私は三重県に住んでいましたので、車イス利用で全盲のため参加できるかどうか心配でしたが、是非体験したくて申し込みました。ウイズの皆さんが、どうしたら参加できるかを考えて下さり、三重県の歩行訓練士の方とウイズの職員が連携を取って、車とフェリーで浜松まで運んでくれました。当時のことながらも感謝しています。

古橋さんや金谷さん、そして斯波さんに暖かく迎えていただき、皆さんと一緒に過ごせたことは大切な思い出です。

自己紹介したり、昼食にはおいしいウナギを食べ、夜には流しそうめんとバーベキュー、そしてミニコンサートなど、皆初めてのことばかりで楽しかったです。

今、光の家では犬や猫の顔のマットを編んでいます。一段一段仕上げるのに時間がかかりますが、出来上がって売れたときは嬉しいです。

ウイズに関わって、私の社会参加は広くなり、もっともっと体験を増やしたいです。

※ 田口久美さんは、三重県出身、歩行困難、視覚・聴覚に障害があり、難病も持っています。ウイズの白杖づくり体験をきっかけに、いろいろなことに挑戦するようになり、音楽活動もしています。



2016年

～ ウイズの活動記録 ～

《2016年7月～2017年1月》

7月

- 11日(月) イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンPR活動
(イオン浜松市野店・イオン浜松西店)
- 13日(水)・14日(木)・19日(火)
蜷塚 広沢小学校交流会
- 15日(金) 職員内部研修(救命救急講習会、視覚障害基礎知識取得)
- 16日(土) ミズモト学園建学祭にて販売
- 19日(火) 半田 歯科検診
- 25日(月) 半田 誕生会(バリアフリー映画鑑賞・シャンボールガーデン)
- 27日(水) 蜷塚 誕生会(浜木綿・イオン浜松西店) 支える会役員会

8月

- 8日(月)～10日(水) 蜷塚 夏休みチャレンジ ボランティア来所
- 18日(木)・19日(金) 半田 夏休みチャレンジ ボランティア来所
- 11日(火) イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンPR活動(イオン浜松市野店・イオン浜松西店)

9月

- 1日(木) 防災訓練
- 6日(火)～27日(火)
蜷塚 健康診断
- 9日(金) わ・ふれあいスポーツレクリエーション大会(グリーンアリーナ)
- 13日(火) 蜷塚 流しそうめん
- 18日(日) 半田地域交流会
- 23日(金) 蜷塚 城北小学校交流会
- 24日(土) 有玉小学校バザーにて販売
- 28日(水) 支える会役員会
- 29日(木) 蜷塚 誕生会(海王・アピタ初生店)

パン食い競争
(ふれあいスポーツレク)

10月

- 1日(土) 西遠女子学園祭にて販売
- 2日(日) コープさんじの虹のまつりにて販売
- 9日(日) 山神社まつりにて販売
- 11日(火) イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンPR活動
(イオン浜松市野店・イオン浜松西店)
- 16日(日) 労福協まつりにて販売
- 21日(金) 稲刈り
- 23日(日) 第9回蜷塚福祉まつり
- 27日(木) 蜷塚 萩丘小学校交流会
- 28日(金) 半田 誕生会(うなぎパイファクトリー・華市)
- 29日(土) スマイルフェスタ(ソラモ)にて販売

11月

- 1日(火)～9日(水) 半田 健康診断
- 3日(木) 六葵祭(浜松視覚特別支援学校)にて販売
- 4日(金) 蜷塚 誕生会(葉っぱ・イオン浜松西店)
- 5日(土)・6日(日) 天竜協働センターにて販売
- 11日(金) イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンPR活動(イオン浜松市野店・イオン浜松西店)
- 12日(土)・13日(日) 長上協働センターにて販売
- 19日(土)・20日(日) 積志協働センター 笠井協働センターにて販売
- 22日(火) 蜷塚 日帰り旅行(お茶づくし&大井川鉄道SL乗車ツアー)
- 26日(土) けやき祭(浜北特別支援学校)にて販売
- 26日(土)・27日(日) 蒲協働センターにて販売
- 30日(水) 支える会役員会

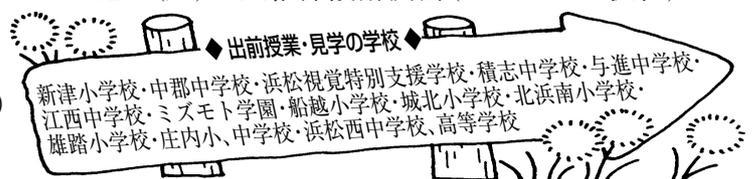
12月

- 1日(木) 蜷塚 かたりべの会朗読会
蜷塚 慈照園交流会
- 5日(月) 半田 障害者週間啓発活動
- 5日(月)・6日(火) 蜷塚 障害者週間啓発活動
- 9日(金) 六星 理事会
- 10日(土) 作業所連合会わ 職員研修会
- 11日(日) ボーイスカウト浜松24団募金活動参加
- 22日(木) クリスマス会(呉竹荘)
- 26日(月) 大掃除・仕事おさめ
蜷塚 広沢小学校合唱部OBによる
- 27日(火) スタッフ仕事おさめ ミニコンサート
- 27日(火)～1月4日(水) 冬期休暇

2017年

1月

- 5日(木) 仕事はじめ
蜷塚 初詣
- 11日(水) イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンPR活動(イオン浜松市野店・イオン浜松西店)
- 18日(水) 蜷塚 歯科検診
- 25日(水) 支える会役員会
- 27日(金) 半田 誕生会(有玉神社・掛川森林果樹公園アトリエ)
- 30日(月) 蜷塚 誕生会(お好み焼き本舗・頭陀寺・しまむら参野店)
- 31日(火) 人権擁護講演会(クリエイト浜松)

初詣
(五社神社)



◆ 「ウイズを支える会」会費納入者・寄付者

平成28年7月～平成29年1月【50音順、敬称略】

稲葉きみ江・池田良子・大橋三恵子・小川あい子・上島和子・上島浄志・神谷博・川田忍・坂井兵吉・静岡県西部視覚障害者親の会・柴山利行・島田江津子・杉浦巧倫・鈴木美紀・高橋節・高橋タカ子・立花明彦・田村徳子・野末慶子・浜松花蝶ちゃん 藤田久枝・廣瀬賢子・藤島正和・細田大介・増井良夫・山城ウエンディ・山城ロベルト・雪島晶子

◆ 協力者・寄付者（物品寄贈・イベント含む）

平成28年7月～平成29年1月【50音順、敬称略】

青島久美子・青島満里子・青島みち子・あけぼの会・あそしえ・渥美恭子・(株)アマノ・イオン浜松市野店・イオン浜松西店・池端昭男・池谷彰郎・石塚若菜・伊藤通宏・伊藤友治・伊藤美紀・稲垣かおり・稲垣円花・井原恵・江間みのり・恵美三紀子・えんあって・大石哲司・太田恵美子・太田とも子・大谷文子・大場里美・大矢悦子・岡村秀栄・岡本樹波・岡本啓・岡本博美・岡本美香・小澤哲男・海泉水産・かざぐるま・笠原祥充・手作りパン工房 風曜日・かたりべの会・金子由美・鎌倉宗男・ガラ紡・(株)カワイ・川合モータース・川本康子・神田和代・木俣マッサージ・木村眞智子・木村有史・金原せい子・金原モータープール・草川泰拓・窪田えり子・久保田実知子・久保陽子・久米一豊・久米喬枝・久米満大・グリーンボックス・グレース工房・慶成会・元気里山・小池真吾・工務店 北山・コープさんじの店・小杉元久・(株)コックス・近藤富美代・酒井亜希・さくら眼科 松久充子・佐々木幸弥・佐々木富子・佐々木睦美・笹野里美・笹本俊一・塩崎静江・七竜堂・C ネットサービス・シーホース・敷島屋・蜷塚一区自治会・蜷塚二区自治会・ス波恵子・柴田文雄・清水光代・下奥重望・菅沼光子・杉の子子ども会・杉山実佐・鈴木喜八・鈴木修一・鈴木信一・鈴木千緒・鈴木紀子・鈴木のり子・鈴木昌子・鈴木勝・鈴木真理子・鈴木美紀・鈴木玲子・砂子和代・須部かづ子・聖隷クリストファー大学 学生(稲垣結那、倉田麻央、小早川真子、笹本花純、柴田海都、久永萌里、馬淵敦矢)・西部視覚障害者親の会・大和リース(株)浜松営業所・高木かず江・高倉かれん・高崎恵美子・高田裕一・高塚三枝・高橋輝雄・高林あき子・高林直政・TAKT PROJECT・竹山和子・田中恵津子・田辺三知代・チュイチュイベリー・辻徹・辻野加代子・鶴田満里・鶴見友紀・東海文化専門学校・戸塚勝子・富田泰寿・豊島印刷・豊島睦子・中井喜四作・長坂養蜂場・長島千元・中田光洋・中村美有・中村ゆかり・中村祐美子・仲山和孝・仲山久美子・夏目容子・なないろカフェ・浪川光代・野末慶子・能勢陽子・野村孝夫・袴田真那・長谷川順子・浜松花蝶ちゃん・早川奈美江・早瀬水由姫・平野二郎・広沢小学校・復泉会・福永貞己・福元辰雄・藤枝光文庫・藤島クリニック・藤原慧麻・船川智子・古橋明里・ボーイスカウト24団・細田恵子・細田とみ子・本間良子・松井明子・松井敬子・松浦典子・松嶋静代・まつぼっくり・丸一物産 安藤・(株)ミカド・水越昭七郎・水野昇・三室洋子・三宅栄子・三輪清・盲人福祉研究会・空屋健一・八木田竹之・八木田洋子・八木良和・山崎三郎・山下光夫・山本明子・山本訓子・山本智・雪島晶子・横山佳穂・吉山昌子・リベロママ蜷塚店・半田、蜷塚地域の皆様・匿名の皆様



あけぼの会様のご協力により音声版でも発行しております。ご希望の方はウイズまで連絡下さい。

編集後記



今冬インフルエンザが全国的に猛威をふるい、なんとス波さんもダウン!!! ス波さんの体調も心配でしたが、このウイズ創設20周年記念号の原稿締め切りが過ぎる中、アセリまくり～の日々でした。皆様に半ば強引に寄稿をお願いし本当に申し訳なく思いましたが、何もない所からウイズを作り築き上げてこられた並々ならぬご苦労と熱い思いを知ることができました。その色々な事を忘れず受け継ぎ、また次に引き継いでいかなければならないと改めて思いました。皆様にご協力いただき感謝申し上げます。ありがとうございました。

(蜷塚スタッフ 内田)

☆ ★ 「ウイズを支える会」への入会のご案内 ★ ☆

「ウイズを支える会」では、会の目的に賛同し、継続的にご支援下さる会員を募っています。年会費は個人会員 1口 2,000円、団体(法人)会員 1口 10,000円といたします。

口座名 「ウイズを支える会」 郵便振替口座 00820-5-71197